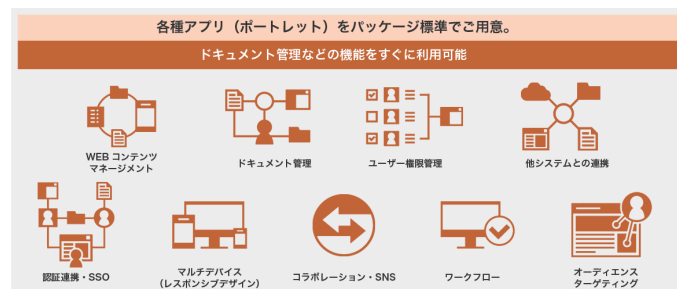


Webシステム構築のための 統合Webポータルプラットフォーム Liferay

Liferayは、Webシステム構築のための「統合Webポータルプラットフォーム」です。ユーザーが必要とする機能部品（ポートレット）が揃っており、また足りない機能を自由に開発することが可能。将来的に発生するビジネスニーズにも迅速に対応することができます。



短期間で高度なWEBサイトの構築やコンテンツ編集が可能



企業情報ポータル「Liferay Digital Experience Platform」には、WEBシステムでよく使われる機能を実現する70以上のアプリケーション部品を標準搭載しています。このため短期間で、WEBサイトの構築やWebブラウザからコンテンツ編集が可能です。また、SNSなどの機能追加や、各種システムやクラウドサービスとの連携インターフェイスを備えているので柔軟なサイト構築が出来ます。

プロダクトとプラットフォームの両立

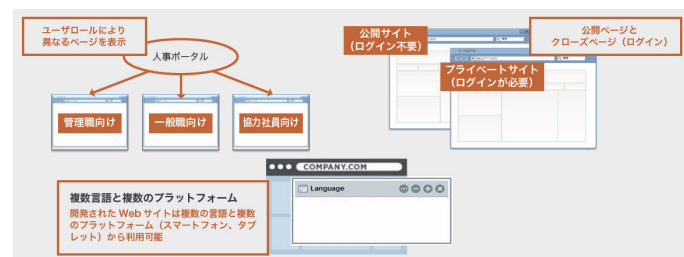
マルチデバイスに最適なポータルを提供、GUIは40ヶ国以上の多言語に対応しています。

ユーザー数に制約を受けないライセンス体系

利用料金は、利用ユーザー数に依存しないサーバー単位の年額利用料金（サブスクリプション）のため、大規模なWebサイトでも低コストで構築・運用することができます。

国内外の多数の導入実績。 キヤノンMJによるシステムインテグレーションを実施

キヤノンMJは、社内外の複数のサイトを「Liferay」で構築し、グループウェアや業務システム、クラウドサービスと連携した拡張性の高いプラットフォームやクラウド基盤を構築してきました。社内ポータルやグループ会社、代理店などのポータルサイトの構築、デジタルマーケティングを意識した会員サイトやeコマースなどのエンドユーザー向けサイトの構築もご提案致します。



●Canon、Canonロゴはキヤノン株式会社の登録商標です。●本紙に記載されている会社名、商品名は、一般に各社の登録商標または商標です。●記載の内容は2018年10月現在のものです。●弊社の都合により予告なく変更させていただく場合がありますのでご了承ください。

製品に関する情報はこちらでご確認いただけます。



キヤノン ホームページ

canon.jp/solution

キヤノン 導入事例一覧

canon.jp/solution-case

Canon キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6 CANON STOWER

●お求めは信用のある当社で

2018年10月現在

Canon

**Solution
REPORT**

ソリューションレポート

導入事例 損害保険ジャパン日本興亜株式会社

パッケージ主体で 迅速かつ安価に 社内ポータルを刷新



Client Profile



損保ジャパン日本興亜

日本国内最大の損害保険会社

従業員数:26,189名

※2018年3月現在

所在地：東京都新宿区西新宿1-26-1

創立：1888年(明治21年)10月

資本金：700億円



最高品質のサービスの提供を目指す、 損害保険ジャパン日本興亜株式会社

2014年、損害保険ジャパンと日本興亜損害保険の合併により誕生。

国内トップクラスの損害保険会社として、日本企業を最高品質の商品・

サービスで支えているのが、損害保険ジャパン日本興亜株式会社です。

同社では、モバイル端末の普及やさまざまなデジタルサービスの登場と

いった昨今の社会的背景を受け、デジタル技術の戦略的な活用を推進。

そうした流れの一環として実施されたのが、今回の社内ポータルの刷新です。

詳しい導入の背景や選定理由などについて、導入当時のご担当者である

IT企画部の荒巻氏と、現在、システムの運用を担当しているSOMPOシステムズ

株式会社の湯汲氏にお話を伺いました。

利用ユーザーの増加でレスポンスが低下し システム自体のソフト・ハードも老朽化



損害保険ジャパン日本興亜株式会社では、合併に伴うレスポンス低下の改善とサポート終了対応のため社内ポータルのリニューアルを検討していました。

複数の理由から検討されることとなった社内ポータルのリニューアル

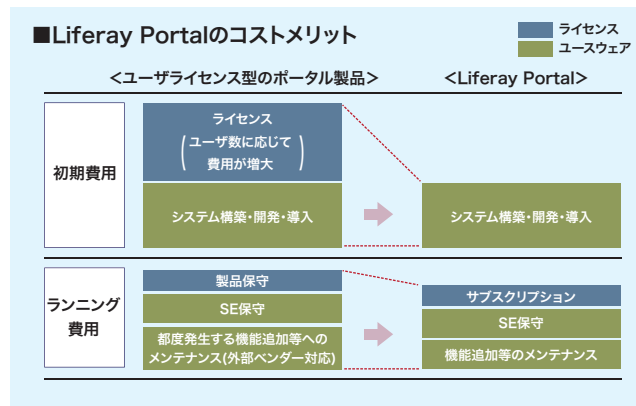
「2014年の合併後、社内ポータルは旧損害保険ジャパンのシステムを引き続き使用することになったのですが、利用ユーザーが劇的に増加したために朝のピーク時間のレスポンスが低下していました。また、ソフトウェアのメーカーサポートが終了し、ハードウェアの販売終了も予定されるなどシステム自体の老朽化も進行。さらにグループウェアであるNotesとの連携に多大なコストがかかっていたことも負担になっていました」と語るのは、リニューアルのご担当者であるIT企画部の荒巻氏。「旧日本興亜損害保険の社員にとっては旧損害保険ジャパンのシステムは初めて使うシステムになるので、その人たちに使いやすさを提供するためにも改めて“社内システムへの入り口”という位置付けを明確にしてポータルサイトのリニューアルを進めることになりました」。

パッケージ主体での構築により 短期間かつ低コストでの刷新が可能

「システムの選定にあたっては、まず旧システムの機能のうち必要なもの、不要なものを切り分けて機能要件を整理していきました。そして、複数の会社のご提案の中から最終的に選択したのが、キヤノンマーケティングジャパンから提案を受けた『Liferay』でした」。

総合的に優れていたキヤノンマーケティングジャパンの提案

荒巻氏によれば、なるべくカスタマイズせずに標準機能で社内ポータルの刷新を進めていくという検討方針に対して、Liferayの基本機能が充実している点、短期間でのリニューアルが可能である点、さらにコスト面でも優位性がある点などが決め手になったとのことでした。「他の製品だとユーザーごとにライセンスが発生し課金が発生するのに対し、サーバー単位でのライセンスであること、その上、処理が軽いのでサーバー数もコンパクトに実装できることがコスト面での大きなポイントになりました。また必須要件であった、グループウェアとして利用しているNotesとの連携も、キヤノン独自開発のAPIにより、スムーズな連携が可能でした」。また提案内容だけではなく、キヤノンマーケティングジャパンの体制にも安心感があったといいます。「一緒にプロジェクトを進めていける万全の体制であったことも含め、総合的にキヤノンマーケティングジャパンが一番優れていました」。



ユーザーの皆さんのみならず 情報を発信する部門からも高評価

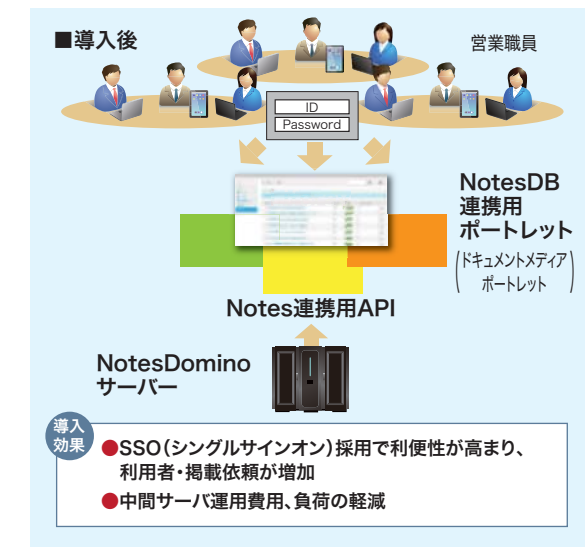
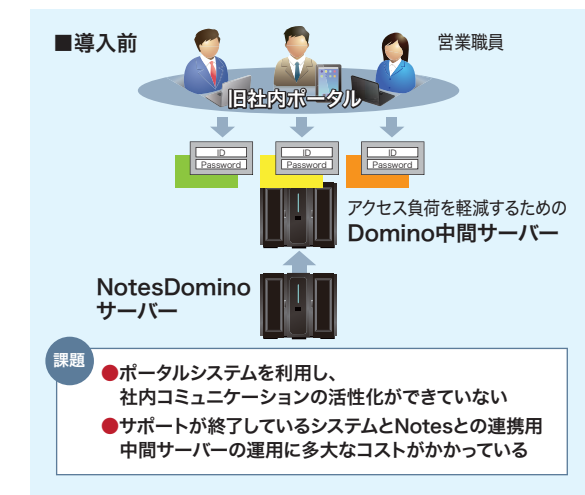
開発開始から、実質10ヶ月程度でリニューアルが完了し、2016年5月にリリースされた社内ポータル「SOMPO Gate」。それから2年、社内ではどのような成果が出ているのでしょうか。「今回、一度のユーザー認証で複数のシステムが利用可能になるシングルサインオンの機能も実装して利便性が高まったことで、『社内ポータルとしての認知度が高まり、より多くのユーザーが使い、さらに認知度が高まる』というよいサイクルが生まれて、順調に利用者の増加にもつながっています。また、本社部門から営業職員への情報共有を徹底する一つのツールとして、情報へのリンク追加の依頼も増えています。これはユーザーのみならず、情報発信する部門からも一定の評価をいただいていると考えていいと思っています」と、荒巻氏。

利用部門以外でも広がるポータルへの評価

運用担当の湯汲氏は、「昔のポータルと比較した印象をユーザーにヒアリングしてみると、起動が早くなった、直感的に操作できるなど、よい反応が集まりました。問い合わせがないのも、それだけ使い勝手がいい証拠だと思いますし、マニュアルがなくても使えるというのは、Liferayの強みだと考えています」。

当社のことを熟知しているぶん、コミュニケーションもスムーズ

また、キヤノンマーケティングジャパンのサポートについては、「これまで何点か機能拡張もありましたが、皆さん、当社の環境やシステムの重要性を熟知して対応してくださっているのととても充実したサポート体制をご提供いただいています」と湯汲氏は続けます。



より一層使い勝手を向上するために いろいろと分析しながらカスタマイズしていきたい

クラウドサービスなどへのリンク依頼が急増

最後に今後の展開について「全社的にクラウドのサービスを適材適所で利用することが増え、社内ポータルへのリンクの追加依頼を頻繁にいただいています。ただ、社内ポータルは限られたエリアにどのようにリンクを配置していくかも大事です。利用状況を分析した上で、利用頻度の高いコンテンツや、会社の施策として重要な情報は画面上の一番目立つ場所に配置するなど、考えて取り組んでいく必要があります。そのためにも、ユーザーの利用傾向の分析やどう配置していけばよいかなど、キヤノンマーケティングジャパンには引き続き知恵を貸していただきたいと考えています」と語る湯汲氏。また最後に荒巻氏は「多数の機能が標準機能で用意されているため、機能拡張が容易であることもLiferayを選択した理由の一つなので、引き続き当社業務に最適な社内ポータルとして柔軟に活用していきたいと考えています」と語ってくれました。これから先も、引き続き同社の取り組みに期待です。

